

令和5年度 林業試験研究推進計画書

1 課題名	(大項目)	木材利用の拡大（建築士等への戦略的アプローチ）	
	(小項目)	木造建築に精通した建築士等の育成	
	(課題名)	高知県産ヒノキの効率的利用に関する研究 （ヒノキの新たな製品展開とその実証）	
2 研究期間	平成29年度～令和5年度	3 総括責任者	資源利用課 盛田 貴雄

4 背景と目的

高知県のヒノキは、「土佐ヒノキ」「幡多ヒノキ」「四万十ヒノキ」などと呼ばれ、木材商品として独自の産地化と市場性を形成してきた。しかし、その大部分が高級意匠材を軸としてきたもので、近年の住宅の洋間化や化粧ばり集成材の台頭などにより、その需要の低迷に悩まされてきた。その結果、建築用材としてのヒノキは、高級役物柱生産から心持ち柱・土台といった一般材の大量生産型となるとともに、構造用集成材やCLT用のラミナといった新たな板材需要もあり、その需給構造が大きく変化してきており、新たな対応が求められている。しかし低質材が故に、その用途を様々な模索してきたスギに比べ、ヒノキは製品化に必要なデータの蓄積が乏しいのが現状である。

本研究では、県産ヒノキを有効に活用することを目的として、様々なヒノキ製品の効率的な利用方法を研究する。建築用材としての効率的な利用方法として、現在のヒノキ丸太の強度分布の把握と丸太から採材される建築用材の強度性能を明らかにし、また、ヒノキ材を利用した家具などの製品性能試験を行い、県産ヒノキの効率的利用についての実証を行う。

5 到達目標

- 1) 丸太から採材されたヒノキ製材品の性能の解明
- 2) 高知県産ヒノキを利用した製品性能の解明

6 研究年次計画

試 験 計 画		担当者
試 験 項 目・試 験 内 容	試 験 年 度	
1 ヒノキ丸太の強度性能 1) ヒノキ丸太のヤング係数測定 2) 木取りとヤング係数の関係 3) 丸太の簡易ヤング係数測定器の性能検証	H29～R3	資源利用課 盛田貴雄 沖 公友 溝口泰彬 竹嶋一紗
2 ヒノキ丸太から採材された建築用材の性能試験 1) ヒノキ製材品の性能試験 2) ヒノキ構造用集成材用ラミナの性能試験 3) ヒノキCLT用ラミナの性能試験	H29～R5	
3 ヒノキ製品の性能試験 1) ヒノキ家具の性能試験 2) ヒノキ組子耐力壁の性能試験 3) ヒノキ構造用集成材接合部の性能試験	H29～R5	

7 当年度研究実施計画

住宅用ヒノキ組子耐力壁の性能試験、ヒノキ家具の性能試験